



# 離島住民意識調査結果について

(財) 日本離島センター

## 目 次

I 調査概要	15	3. 交通問題	21
II 調査方法	16	4. 産業問題	22
III 意識調査結果	16	5. 定住性向	25
1. 島民生活実感	16	6. 将来観	27
2. 生活環境向上感	17	IV まとめ	28

## I 調査概要

「離島住民の意識に関する調査」は、日本離島センターが昭和45年度に経済企画庁から委託を受けて実施したが、その後5年後の昭和50年度に同一の方法で国土庁から委託されて実施したものである。ただし、今回は、離島振興法に指定された地域の他に奄美群島が含まれている。

離島振興法が昭和28年に制定されてから10年後の昭和38年、さらに10年後の同48年にその内容の強化・充実をともなって、法律の有効期限の延長が行なわれたが、その間、離島をとりまく四囲の情勢は大きく変動し、その波は直接、間接に離島社会にも影響を及ぼしたと考えられる。

こうした状況を背景としながらも、離島社会は離島振興法によって年々、その産業基盤、生活環境整備等が実施されて来たわけであるが、過去における本土と離島との格差是正が、十分になされているか否か、離島の住民が国の離島振興政策を

どのように評価しているかについては総体的にとらえることはなかった。

そこで、昭和45年度に第1回目の「離島住民の意識に関する調査」が実施され、昭和28年以降45年までの離島振興の成果が島民によって、どのように評価されたかを明らかにし、今回、昭和50年度に、その後の成果がどのように評価されたかを再度明らかにしようとしたのである。

調査内容は、離島民の生活実感、産業観、定住性向等多面にわたる質問を用意して行なっているが、臨島と一言で表現しても、そこには、離島の規模、位置等により自ら離島間格差が存在するため、調査結果において、臨島を便宜上、8つの類型に区分して分析することとした。また、今回の調査では、鹿児島県奄美群島の各島の住民に対しても同一調査を実施しているが、本稿においては、紙面の都合により割愛することとした。



## II 調査方法

母集団 離島振興法指定離島に居住する満16才以上の男女 (留置法)  
 調査時期 昭和50年11月1日～10日  
 標本数 5,000人 回収数(率) 4,621票(92.42%)  
 地点数 127島 423地点 欠票数 379票(7.58%)  
 抽出方法 層化多段無作為抽出法 欠票数のうち未着票は185票(3.7%)  
 調査方法 調査員による配布、記入依頼、回収

## III 意識調査結果

離島住民意識調査の分析にあたっては、対象離島にそれぞれの地理的、社会的諸条件による差異があるため、国土庁が採用している離島の類型分類(5類型)を基本に、次のとおり類型化した。

- ① 孤立大島
- ② 孤立小島
- ③ 群島主島
- ④ 群島属島
- ⑤ 外海近接離島
- ⑥ 内海離島(人口5,000人以上)
- ⑦ " (対本土航路時間1時間以上)
- ⑧ " (人口5,000人未満で対本土航路時間1時間未満)

以上の8類型によって、各質問ごとの調査結果を分析することとする。

### 1. 島民生活実感

(第1表) 問1. まず、あなたのこのごろの暮らし向きはどうか

1. いいほう	40	} 24.1%
2. まあまあいいといえる	20.1	
3. これがふつう	40.2	40.2
4. まだよくない	29.1	} 33.3
5. 大へんよくない	4.2	
6. わからない	2.4	

「このごろの暮らしむき」(問1)については24.1%の者が<よい>と回答したが、<よくない>との回答者は33.3%であった。<これがふつう>と回答した者は40.2%であった。類型別に見ても、類型化による大きな差異は認められなかったが、「孤立小島」において<よい>との回答が他の類型に比べわずかに少ない程度であった。

「4～5年前にくらべて」(問2)の生活実感としては、<よくなった>との回答者は47.3%で約半数を占め、逆に<悪くなった>との回答者は18.6%であった。しかし、<よくなった>との回答者の実感は、<大へんよくなった>と感ずる者は4.3%であり、43.0%の者は<いくらかはよくなった>ということであった。この質問の回答でも、島の類型別の差異はあまり見受けられなかった。

(第2表) 問2. 4～5年前にくらべてはどうか

1. 大へんよくなった	4.3	} 47.3%
2. いくらかはよくなった	43.0	
3. 変りはない	30.5	30.5
4. すこし悪くなった	18.9	} 18.6
5. 大へん悪くなった	4.7	
6. 4～5年前にはこの島に いなかった	3.6	3.6

「全般的にみて、この島の生活は4～5年前にくらべてどうか」(問4)との質問に対する回答は、<よくなっている>との回答者が59.7%で

(第3表) 問4. 全般的にみて、この島の生活は4～5年前とくらべてどう思いますか

1. いろいろいい点が多くなった	10.2	} 59.7%
2. いくらかはいい点が出てきた	49.5	
3. 変りはない	19.8	19.8
4. いくらか前より悪くなっている	9.7	} 12.9
5. 4～5年前よりずっと悪くなっている	3.2	
6. わからない	7.6	7.6

半数以上を占め、<よくなっていない>との回答者は12.9%であった。類型別では孤立小島、群島属島において<よくなっている>との回答者がそれぞれ76.7%、76.4%と高い比率を示していた。逆に、群島主島、内海離島(対本土1時間以上)において<よくなっていない>の回答者がそれぞれ17.5%、17.7%と他の類型に比べて高い比率を示していた。また、<いろいろいい点が多くなった>との生活向上に対する積極評価を示しているのは、孤立小島の15.5%であった。

島での生活実感は、いずれの類型別離島においても、いわゆる「まあまあ」的な満足感である。積極的な評価もみられるものの、強い失望感あまり示されていない。このことは、「あなたは島での生活をどう感じていますか」(問3)の回答結果において<いい点があるが悪い点もある>が58.5%、<いいとか悪いとか一がいにいいない>が18.0%と、中間的感想を回答しているもの多かつたことによっても示されている。ただし、同質問で<悪いと思うことのほうが多い>と回答した者のうち外海近接離島において20.1%と高い比率を示していることは、やはり、本土との比較が他の島に比べ容易に出来ることによるのであ

ろうか。

## 2. 生活環境向上感

島民の日常生活全般について、産業面、公共事業、文化、厚生面等33項目を用意して「よくなっているもの」「よくなっていないもの」「改善してほしいもの」と、同一回答項目についてそれぞれ尋ねた。全体の傾向としては、<衣料品><食事><電話><道路>などが「よくなっている」と回答しているが、<ゴミ・し尿処理><病院・診療所><医師・看護婦><娯楽施設>などが「よくなっていない」ものとして回答されている。

(第4表) 問5. 島のくらしで、この点はいくらかでもよくなっているものをあげて下さい(重複回答)

島民の着るもの・衣料品	53.6%
毎日の食事・たべもの	55.6
住宅	41.7
新聞や雑誌の購読	13.9
テレビ・ラジオの視聴	46.5
電灯	29.3
電化生活	46.6
プロパンガス	36.2
水道	41.0
ゴミ・し尿の処理	38.0
防犯	7.0
消防	29.1
子どもたちの生活	20.1
若い人たちの生活	11.4
老人の生活	33.8
隣り近所づきあい	12.5
全般的に所得	12.2
交通事情	25.1
通信	
電信・電話	68.7
郵便	13.6



厚 生 ・ 文 教	病院・診療所	13.1%	
	医者・看護婦	5.9	
	保育所・母子センター	17.0	
	娯楽施設	3.0	
	図書館・公民館・集会所	18.7	
	教育	16.6	
	道 路	69.8	
	産 業	農業・林業	5.1
		漁 業	7.2
		港	34.5
観光施設		13.7	
よくなったものはない	0.3		
わからない	1.8		

第4表は「よくなってきているもの」(問5)についての回答結果である。〈衣料品〉〈食事〉〈電信・電話〉〈道路〉など日常生活を営む上で直接的に関わっているものに「よくなってきている」との向上感をもっている。これらの各回答項目については、全体で5割以上のものがそれぞれ回答している。

(第6表) 問6. 「よくなってきていないもの」 (重複回答)

生 活 環 境	島民の着るもの・衣料品	4.3%	
	毎日の食事・たべもの	5.8	
	住 宅	10.1	
	新聞や雑誌の購読	13.9	
	テレビ・ラジオの視聴	4.8	
	電 灯	4.7	
	電化生活	1.9	
	プロパンガス	3.5	
	水 道	14.3	
	ゴミ・し尿の処理	28.1	
通 信	防 犯	13.5	
	消 防	7.2	
	子どもたちの生活	9.6	
	若い人たちの生活	18.9	
	老人の生活	15.7	
	隣り近所づきあい	10.6	
	全般的に所得	21.8	
	交通事情	29.3%	
	電信・電話	6.2	
	郵 便	13.5	
厚 生 ・ 文 教	病院・診療所	49.9	
	医者・看護婦	41.0	
	保育所・母子センター	17.5	
	娯楽施設	36.3	
	図書館・公民館・集会所	21.9	
	教育	16.7	
	産 業	道 路	18.4
		農業・林業	28.8
		漁 業	22.6
		港	17.1
観光施設		24.7	
そのようなものはない		0.5	
わからない		6.2	

とくに〈道路〉に関しては、全体の回答率69.8%であり、島の類型別にみると孤立大島(70.9%)、群島主島(77.2%)、内海離島(人口5,000人以上)(70.3%)などにおいては島民の7割以上が向上感をもっている。

「よくなってきているもの」の上位10項目を選ぶと第5表のとおりである。やはり、日常生活を営む上で直接的に関係する衣・食・住、そして情報伝達手段としてのテレビ等が回答されている。

(第5表) 「よくなってきているもの」上位10項目

1. 道 路	69.8%
2. 電信・電話	68.7
3. 毎日の食事・たべもの	55.6
4. 島民の着るもの・衣料品	53.6
5. 電化生活	46.6
6. テレビ・ラジオの視聴	46.5
7. 住 宅	41.7
8. 水 道	41.0
9. ゴミ・し尿の処理	38.0
10. プロパンガス	36.2

第6表は、質問5の逆質問で「この点は変わらない、まだよくなってきていないと思われるのはどれか」という質問の回答結果である。全般的に回答率は低目であるが、〈病院・診療所〉〈医者・看護婦〉に対する不満回答はそれぞれ49.9%、41.0%、さらに〈娯楽施設〉については36.3%と比較的高い。

島の類型別では、孤立小島における〈新聞や雑誌の購読〉(33.0%)、〈ゴミ・し尿の処理〉(48.5%)、〈図書館・公民館・集会所〉(44.7%)、〈若い人たちの生活〉(41.7%)などの回答項目において「よくなっていない」の意向が集中していた。この傾向は群島属島、内海離島(対本土1時間以上)においても、ほぼ同様の回答結果が得られている。このことは小型のへき地性のより強い島では、情報伝達や社会教育的施設整備が立遅れていることを示しているものと思われる。孤立小島で〈教育〉に対する不満が35.0%あったことも、環境整備の立遅れを暗に指摘しているものとみることができよう。これに対し、孤立大島、群島主島など、大型の離島では「よくなってきていない」の回答は総じてすくなく、多少目につくものといえ、産業関係回答の〈農業・林業〉が孤立大島で31.8%、群島主島で32.4%、〈漁業〉のそれぞれ23.5%、30.4%の回答結果が示されているにとどまり、総じて小型の離島とは対比的といえる。

「よくなってきていない」ことに対する回答結果を島民の年齢別に見た場合、〈娯楽施設〉について30才未満層が40%以上の回答を示しているのに対して60才以上層では20%台であり、年齢差による評価の違いが明確に示されている。産業面・厚生面の項目では年齢による回答差はあまり顕著ではない。

「まだよくなってきていないもの」の回答結果

のうち、上位10項目をみると第7表のとおりである。

(第7表) 「よくなってきていないもの」上位10項目

1. 病院・診療所	49.9%
2. 医者・看護婦	41.0
3. 娯楽施設	36.3
4. 交通事情	29.3
5. 農業・林業	28.8
6. ゴミ・し尿の処理	28.1
7. 観光施設	24.7
8. 漁 業	22.6
9. 図書館・公民館・集会所	21.9
10. 全般的に所得	21.8

(第8表) 問7. 「改善してほしいもの」 (重複回答)

生 活 環 境	島民の着るもの・衣料品	3.2%
	毎日の食事・たべもの	4.1
	住 宅	12.7
	新聞や雑誌の購読	7.1
	テレビ・ラジオの視聴	4.7
	電 灯	4.1
	電化生活	1.4
	プロパンガス	2.6
	水 道	15.4
	ゴミ・し尿の処理	31.5
通 信	防 犯	11.0
	消 防	8.4
	子どもたちの生活	11.1
	若い人たちの生活	15.6
	老人の生活	20.4
	隣り近所づきあい	4.8
	全般的に所得	20.5
	交通事情	33.1
	電信・電話	9.2
	郵 便	7.0



厚生・文教	病院・診療所	52.9%
	医者・看護婦	41.5
	保育所・母子センター	17.4
	娯楽施設	28.1
	図書館・公民館・集会所	19.6
産業	教育	20.7
	道路	39.1
	農業・林業	24.5
	漁業	20.1
	港	22.7
業	観光施設	20.8
	改善してほしいものはない	0.3
	わからない	4.1

第8表は、「これからこの点は改善してもらいたい、力を入れてもらいたいと思うのは何か」（問7）との質問に対する回答結果である。全般的に回答率は「よくなってきているもの」（問5）より減少しているものの改善への要望は顕著なものがある。例えば、〈病院・診療所〉（52.9%）、〈医者・看護婦〉（41.5%）や〈道路〉（39.1%）、〈交通事情〉（33.1%）、〈ゴミ・し尿の処理〉（31.5%）といった厚生面、交通関係等生活基盤を支える主要なことから高い改善希望の回答が示されているが、産業面での改善希望回答は20%前後にとどまっている。島の類型別では小型の離島での改善希望が高く、とくに医療、交通関係の項目に対する希望がきわだっている。〈娯楽施設〉は孤立小島55.3%、群島属島36.6%の高い回答率を示しており、また〈図書館、公民館、集会所〉は孤立小島で35.9%を占めている。このことは、単に生産基盤の整

備等ばかりではなく、日常生活の中での「いい」へ視点が変化して来ているためであろうか。なお〈老人の生活〉についての改善希望の回答をみると8類型中、孤立小島が24.3%と第1位であった。

これに対し、大型の離島では、医療面の改善希望を除いては、顕著な回答結果が示されていない。ただ、孤立大島、群島主島、内海離島（人口5,000人以上）において〈全般的に所得〉の回答がそれぞれ24.4%、23.2%、20.5%と8類型中上位1～3位を占めていることは、小型の離島との比較において特徴的なものを見ることができよう。

問5「よくなってきているもの」、問6「まだよくなってきていないもの」、問7「今後改善してほしいもの」の3つの質問において、いくつかの回答項目は、島民の意志表示の対象として選択されているが、例えば、〈防犯〉、〈郵便〉、〈保育所・母子センター〉などの回答項目については、選択の対象項目としては、いわゆる影のうすいものであった。このことは、とくに〈防犯〉等で代表されるとおり、島内での生活の中では〈防犯〉ということの必要性が未だ考慮されずに生活を営むことが可能であることを示しているであろうか。

次に、問5～問7までの各回答項目のうち回答率の多かった上位10項目を第9表に列挙してみる（「よくなっている」「よくなっていない」の各回答項目は第5表、第7表の再掲である）。

第9表において、各質問の回答結果に相関が見られるものと、そうでないものがあった。

例えば〈道路〉は、「よくなっている」との回答率が69.8%で第1位であったが、「改善してほしい」回答項目では第3位（39.1%）に選ばれている。

（第9表） 関連質問による回答項目結果表

順位	よくなってきているもの	よくなっていないもの	改善してほしいもの
1	道路 69.8%	病院・診療所 49.9%	病院・診療所 52.9%
2	電信・電話 68.7	医者・看護婦 41.0	医者・看護婦 41.5
3	毎日の食事 55.6	娯楽施設 36.3	道路 39.1
4	島民の着るもの 53.6	交通事情 29.3	交通事情 38.1
5	電化生活 46.6	農業・林業 28.8	ゴミ・し尿処理 31.5
6	テレビ・ラジオ 46.5	ゴミ・し尿処理 28.1	娯楽施設 28.1
7	住宅 41.7	観光施設 24.7	農業・林業 24.5
8	水道 41.0	漁業 22.6	港 22.7
9	ゴミ・し尿処理 38.0	図書館・公民館等 21.9	観光施設 20.8
10	プロパンガス 36.2	全般的に所得 21.8	教育 20.7

（注） 回答項目の一部の表現を調査票のそれと都合により変えたものがある。

「よくなっていない」とことと「改善してほしい」とこととは、回答項目によってパラレルであるものとそうでないものがある。例えば〈全般的に所得〉〈教育〉〈図書館・公民館・集会所〉などは「よくなっていない」とことと「改善してほしい」ということとは別個の次元で回答されているようであるが、医療、交通関係また、産業関係の回答項目等島民の日常生活の中でいわゆる身近に接すると思われるものについては「よくなっていない」ものが即「改善してほしい」ものとなっているようである。

### 3. 交通問題

離島と本土間の交通は、空路と海路があるが、空路が利用できるのは一部の大型離島であって、他のすべての離島は海路によらなければならない。しかし、島の規模、対本土距離等の条件によって客船、カーフェリー等による定期航路が開設されている島と、定期航路が未だ開設されていない島、定期航路はあっても島へ上陸するためにはハシケが必要である島など、条件によって対本土交通は多種多様である。

（第10表） 問8. この島と本土との交通をどうお感じですか

1. ともかく困っている	14.5%
2. いくらかだが困ることは困っている	41.4
3. とくにどうということはない	17.4
4. まあいいと思っている	16.1
5. 困ることはない	5.0
6. 関係がない、わからない	5.6

（第11表） 問9. 困るということはどういうことがお困りですか（重複回答）

A(母数 4,621) B(母数「困っている」2,583)

	A	B
1. 定期便がない	2.3%	4.1%
2. フェリー便がない	5.3	9.4
3. 定期便の回数が少ない	28.6	51.2
4. 欠航が多い	10.3	18.5
5. 発着の時間が不便	12.9	23.2
6. 経路が困る	7.0	12.5
7. 運賃が高い	24.5	48.8
8. 船が小さい	10.2	18.2
9. 船がおそい	18.0	32.2
10. 船が古い	3.2	5.7
11. はしけどりであぶない	1.4	2.5
12. 待合所がない	5.5	9.8
13. その他	1.6	2.9
14. わからない	1.0	1.8



第10表は「この島と本土との交通をどうお感じですか」(問8)の質問に対する回答結果である。〈困っている〉ものは55.9%であるのに対して〈困っていない〉ものは38.5%であった。〈困っている〉もののうち〈ともかく困っている〉と回答したものは全体の14.5%であったが、その回答者のうち孤立小島が30.1%と高い回答比率を示していた。〈困ることはない〉との回答者のうち島の類型別では内海離島(5,000人以上)が9.3%で最も高い回答比率であった。

(第12表) 問8. 対本土交通の比較

	孤立大島	孤立小島
1. ともかくこまっている	95%	30.1%
2. いくらかが困ることは困っている	38.8	53.4
3. とくにどうということはない	21.7	3.9
4. まあいいと思っている	20.4	4.9
5. 困ることはない	3.9	-
6. 関係がない、わからない	5.8	7.8
計	100.0	100.0

対本土交通について孤立大島と孤立小島との回答結果を比較したのが第12表である。〈ともかく困っている〉との回答率の差はそのまま〈とくにどうということはない〉〈まあいいと思っている〉の回答項目の合計数値における両者の差と逆相関になっている。すなわち、離島のうちでも大型離島では、航路についての困る程度が量的なものでも、質的なものでもなく、価値観が重要な要素として考えられはじめてきているようである。

第11表は「困るということはどういうことかお困りですか(M・A)」の回答結果を示している。前問「島と本土との交通について」の回答項目のうち〈ともかく困っている〉と〈いくらかが困ることは困っている〉との両回答項目の回答

者2,583人(全体の55.9%)について困っている理由を尋ねているが、「困っている」ことの第1位の理由は〈定期便の回数が少ない〉(51.2%)ということ、次いで〈運賃が高い〉(43.8%)〈船がおそい〉(32.2%)などであった。

困っている理由について、島の類型別に回答結果をみると、孤立大島では〈船がおそい〉(22.2%)、〈運賃が高い〉(21.8%)、〈定期便の回数が少ない〉(19.0%)などが主な理由。群島主島でもほぼ同様であった。これに対し、孤立小島では〈定期便の回数が少ない〉(56.3%)、〈欠航が多い〉(41.7%)、〈船がおそい〉(36.9%)、〈船が小さい〉(32.0%)などが主な理由であった。回答項目中〈運賃が高い〉ことを理由にあげているところは主に大型離島ならびに内海離島であった。特徴のある回答結果としては、孤立小島の〈発着の時間が不便〉(24.3%)、群島属島の〈経路が困る〉(17.4%)、外海近接離島の〈船が古い〉など小型離島としての回答で〈待合所がない〉が孤立小島で19.4%、内海離島(対本土1時間以上)が18.7%、群島属島14.9%などであった。経路の問題、待合所の問題などは小離島であるがゆえの航路の問題として示されているようである。

#### 4. 産業問題

離島における産業問題は第1次産業である農業・漁業と第3次産業である観光業に集約して考えることができるであろう。島によっては、地場産業の一環として加工業、造船業等も行なわれているが、それらは島を代表する産業としては一部分的すぎるものである。上述の農業、漁業、観光業は離島の地場産業としては、その善悪の議論を超えて考えたとしても、今後、より重要視されなければならないであろう。

(第13表) 問14. この島での農業についてあなたのお考えはどうか(重複回答)

1. もっと盛んにすべきだと思う	25.8%
2. もっと改良して生産を高めるべきだと思う	33.8
3. 経営規模を拡大すべきだと思う	12.4
4. 作目をふやすべきだと思う	6.4
5. 共同化を推進する	14.8
6. 機械化をすすめること	11.5
7. 農協を強化すること	15.6
8. 流通機構を整備すること	18.7
9. 加工を考え能率化すること	12.9
10. まず農業資金の充実を	16.1
11. 特産物に力を入れる	23.6
12. 農業労働力の確保を	13.5
13. 後継者を育てる	27.7
14. この島での農業は希望できない	7.5
15. わからない	20.8

第13表は、島での農業について尋ねたところの回答結果である。回答率の最も高いものは〈もっと改良して……〉の33.8%で、次いで〈後継者を育てる〉の27.7%、〈もっと盛んに……〉の25.8%、〈特産物に力を入れる〉の23.6%であった。逆に、〈この島での農業は希望できない〉が7.5%であった。

離島の多くは耕地面積が狭小であるが、全体的にみて、農業に対する関心度は決して高いものではなかった。回答項目中の〈わからない〉については、全体の20.8%が回答していた。

島の類型別に回答結果をみると、孤立大島、群島主島など大型の離島において関心が高く、孤立小島、群島属島など小離島では関心が低かった。外海近接離島では〈この島での農業は希望できない〉が24.1%、〈わからない〉が30.0%と島の類型別比較において第1位であった。逆に、大

型の離島では、それらの回答項目に対する回答率はきわめて低いものであった。〈農協を強化すること〉については内海の離島での回答率が高かった。

(第14表) 問15. この島での漁業についてはどうお考えですか (重複回答)

1. 漁業をともかく盛んにすべきだ	26.4%
2. もっと改善して収穫を高めるべきだ	22.2
3. 経営組織を充実すべきだ	9.4
4. 漁港の整備を	26.2
5. 漁船の大型化を	11.5
6. 漁法の改善を	13.0
7. 漁場の開発を	19.7
8. 養殖漁業を推進する	26.2
9. 共同化の推進を	7.4
10. 漁協の強化を	13.0
11. 流通機構の整備を	13.8
12. 加工を考え能率化を	12.3
13. まず漁業資金の充実を	12.3
14. 漁業労働力の確保を	9.4
15. 後継者を育てる	19.1
16. この島でのこれからの漁業は希望がもてない	2.9
17. わからない	31.1%

第14表は島での漁業について尋ねたところの回答結果である。回答率の高い順にみると、〈漁業をともかく盛んに……〉が26.4%の第1位で、次いで〈漁港の整備を〉〈養殖漁業を推進する〉が同率の26.2%、〈もっと改善して収穫を高める……〉の22.2%などであった。しかし、〈わからない〉との回答が31.1%と最高の回答率であったことは、意外な結果であったといえよう。

島の類型別に回答結果をみると、孤立小島、群島属島など外海の小離島における漁業に対する関心が極めて高かったのに比較して、内海の離島に



おいては、その関心は低かった。例えば、〈漁港の整備を〉については孤立小島において61.2%、〈もっと改善して……〉でも同島で41.7%、〈養殖漁業を推進する〉の34.0%などであったのに対して、内海の離島では、〈わからない〉に対して内海離島（5,000人以上）が45.1%、同島（対本土1時間以上）が34.3%、同島（その他）34.4%など、その関心の低さが顕著に示されている。ちなみに孤立小島の〈わからない〉は15.5%であった。〈この島でのこれからの漁業は希望がもてない〉と回答したところは、内海離島（対本土1時間以上）の7.1%が最高値であった。

（第15表）問16. この島での観光についてはどう考えですか（重複回答）

1 観光を盛んにすべきだ	27.1%
2 観光施設の充実・整備	29.9
3 本土の業者にまかせて盛んにすべきだ	3.4
4 島内の資本によって盛んにすべきだ	13.6
5 観光資源の開発を	20.0
6 観光客を迎えるための教育を	12.9
7 観光宣伝を	16.5
8 みやげ品などの開発を	15.5
9 民宿をさかんにすべきだ	12.7
10 地域産業としての特色を生かした観光を	24.9
11 この島への交通の開発整備を	23.1
12 物価があがるのでこまる	19.6
13 風紀が乱れるのでこまる	13.4
14 自然が破壊されるのでこまる	14.3
15 交通が混雑するのでこまる	16.0
16 この島での観光に希望はもてない	3.2
17 わからない	13.3

第15表は、島の観光について尋ねたものの回答結果である。最も高い回答率を示した項目は〈観光施設の充実・整備を〉が29.9%で、次い

で、〈観光を盛んにすべきだ〉の27.1%、〈地域産業としての特色を生かした……〉の24.9%、〈この島への交通の開発整備を〉の23.1%などであった。しかし、〈物価があがるのでこまる〉（19.6%）、〈交通が混乱する……〉（16.0%）など、観光開発に対する批判的項目にも比較的高い回答率が示されていた。

島の類型別でみると、いわゆる観光開発推進希望の意向を表明しているものは大型離島に多く、逆に、観光開発批判回答は、小型の離島に高い結果が示されていた。〈この島での観光に希望はもてない〉との回答は外海近接離島の12.2%が最も高いものであった。

以上、こうした離島の産業に対する島民の意向をふまえて、第16表は、島の今後の発展、振興策について尋ねたものである。

（第16表）問22. こんど、この島の発展・振興のためにはどの産業に力を入れたらいいと思いますか（重複回答）

1 農業を	36.3%
2 さとうきび・製糖業を	3.4
3 野菜・果樹・花卉園芸を	30.7
4 畜産を	21.0
5 その他の農業を	4.8
6 林業を	9.0
7 漁業を	42.8
8 鉱業を	2.3
9 工業を	12.0
10 大島紬製造を	2.2
11 海運業を	7.2
12 観光を	32.7
13 その他	2.5
14 わからない	14.9

回答結果における第1位は〈漁業を〉の42.8%で、次いで〈農業を〉の36.3%、〈観光を〉の32.7%が回答者の30%以上のものが選択した回答項目であった。〈漁業を〉については群島属島の72.0%を最高に孤立小島の68.0%など小型の離島での回答の高さが顕著であり、〈農業

を〉については孤立大島の49.2%、群島主島の43.4%が高い回答率であった。また、〈観光を〉は、孤立大島が43.0%、孤立小島が39.8%と孤立型の離島で高い回答率を示していた。これとは逆に内海の各離島では〈わからない〉との回答がそれぞれ20%前後ありもっとも多かった。

## 5. 定住性向

（第17表）問26. この島に住みつづけるお考えがありますか。

1 是非住みつづけたい	45.5%
2 出来れば住みつづけたい	34.6
3 出来れば移りたい	8.7
4 是非移りたい	2.2
5 わからない	9.0

第17表は島民の島での定住性向について尋ねた結果を示したものであり、第18

表は、第17表において〈出来れば移りたい〉〈是非移りたい〉の回答者506人（全体の11.0%）に対して、移りたい理由を尋ねた結果を示したものである。

まず、第17表において〈是非住みつづけたい〉との積極的定住の意向を示しているのは45.5%で、〈出来れば住みつづけたい〉との消極的定住の意向を示しているものは34.6%であった。これに対して〈出来れば移りたい〉が8.7%、〈是非移りたい〉が2.2%であり、回答者の11%が移住を希望している結果となっている。この11%（506人）に対して尋ねた移住の理由の最も多かったものは〈将来の見通しが暗い〉の50.4%で移住希望者の半数以上がこの理由を示していた。次いで〈本土の方がもっといいから〉の18.6%、〈文化的でないから〉の16.8%、〈働きがいがないから〉の14.4%

（第18表）問27. この島から移りたいというお考えは、次のどのことですか

	(全体)	(該当者)
1 将来の見通しが暗い	5.5%	50.4%
2 働きがいがないから	1.6	14.4
3 本土の方がもっといいから しができると思うから	2.0	18.6
4 楽しみが少ないから	0.7	6.8
5 文化的でないから	1.8	16.8
6 とくにない	0.9	8.8
7 わからない	0.5	4.5

などが主な移住希望の理由であった。とくに理由はないが移住したいと思っているものは8.3%であった。

定住性向について島の類型別にみると〈是非住みつづけたい〉との回答は内海離島（人口5,000人以上）が51.1%で最も高く、次いで孤立大島の49.9%、群島主島の45.0%などであったが、これとは逆に孤立小島では31.1%と比較的低かった。しかし、〈出来れば住みつづけたい〉との消極的定住希望は、内海離島（対本土1時間以上）の46.5%、孤立小島の43.7%などで高い回答率であった。また孤立小島では〈出来れば移りたい〉との回答が17.5%で、この回答項目では最も高い回答率であった。〈是非移りたい〉との積極的移住希望で最も高い回答率を示していたのは外海近接離島の7.1%であった。これとは逆に孤



立大島では「是非移りたい」との回答者は0.9%と少数であった。

移住希望の理由について島の類型別にみると、いずれの島でも「将来の見通しが暗い」との理由を第1位に選んでいる。外海近接離島では「本土

の方が…」の回答が高かったが、これは、身近に本土の実生活を見聞することができることによる相対的感覚から派生したものであろうか。このことは内海離島(人口5,000人未満)(対本土1時間未満)においても同様の傾向が示されている。

(第19表) 回答者の属性別回答結果 (定住性向)

		総数	是非住み続けたい	出来れば住み続けたい	出来れば移りたい	是非移りたい	わからない
性別	男	2,327	47.3%	35.6%	7.9%	2.1%	7.0%
	女	2,294	48.6	33.5	9.6	2.3	11.0
年齢	16~19才	267	15.7	31.1	15.7	7.1	30.3
	20~29	738	27.6	38.6	15.9	3.9	14.0
	30~39	821	35.7	43.1	9.9	2.6	8.8
	40~49	1,104	46.6	36.5	8.7	1.8	6.3
	50~59	851	54.8	33.4	5.2	1.1	5.6
	60~69	529	66.7	23.8	3.4	0.4	5.7
	70~	311	73.3	19.9	1.9	0.6	4.2

定住性向について回答者の属性(男女別・年齢別)をみたのが第19表である。男女別での定住性向の差は、女に比べて男の方が多少ではあるが定住希望が高く、逆に移住希望は女の方が多少高い。年齢別にみると、19才未満の若年層では「是非住み続けたい」と「出来れば移りたい」との回答が、15.7%の同率であったことと「わからない」との回答が30.3%ときわめて高い回答率を示していたことが特徴的である。「是非住み続けたい」との積極的定住希望を示しているのは年齢が高くなるほどその回答率は高くなり、70才以上の回答者(311人)では、その73.3%が「是非住み続けたい」としている。移住希望の回答は、年齢が高くなるほど、その回答率は低くなっている。

(第20表) 問25. いま住んでいる場所以外、この島のどこかへ移りたいといったお考えはありますか。

1. 島内でもっと便利なところに移りたい	62%
2. 近くの比較的便利なところに移りたい	9.9
3. 移りたくない	69.6
4. わからない	14.3

第20表は島内での移住について尋ねたことに対する回答結果である。回答者の69.6%は「移りたくない」と回答している。島内の便利なところへ移りたいとの希望をもっているものは16.2%であった。

次に、「もし、お宅がこの島から移るとしたら何が心配ですか」(問28)と尋ねたが、その回答結果は第21表に示すとおりである。

最も大きな心配ごととは「住宅問題」の46.2%であった。次いで「職を変えなければならない」

(第21表) 問28. もし、お宅がこの島から移るとしたら何が心配ですか(重複回答)

1. 職を変えなければならない	37.4%
2. 住宅問題	46.2
3. 新しい場所への不安	31.8
4. 財産などの処分	10.8
5. 移転資金がない	16.8
6. 墓地	13.2
7. 友人や親戚とのつきあいが出来なくなる	11.8
8. 心配はない	6.4
9. わからない	18.1

の37.4%、「新しい場所への不安」の31.8%などが心配ごとの大きなものであった。これらの心配ごとはいずれの島でもほぼ同様の回答結果であった。孤立小島では「墓地」を心配ごととして回答しているものが16.5%で、この項目では他の島と比較において第1位であった。また、群島属島では「友人や親戚とのつきあいが出来なくなる」ことに対する心配として14.9%の回答があり、この項目での第1位であった。

(第23表) 回答者の属性による将来観

区分		総数	かなりよくなるだろうと思っている	いくらかよくなるだろうと思っている	変りはない	いくらか苦しくなると思う	かなり苦しくなると思う	わからない
性別	男	2,327	6.8%	32.1%	17.8%	18.9%	11.4%	13.1%
	女	2,294	5.8	28.9	16.6	18.8	8.4	21.5
年齢	16~19才	267	9.0	40.1	9.7	12.4	6.4	22.5
	20~29	738	5.7	36.4	15.3	16.9	8.9	16.7
	30~39	821	5.2	29.8	17.7	20.3	10.7	16.2
	40~49	1,104	6.8	29.3	15.7	19.7	12.7	15.9
	50~59	851	6.2	31.3	21.2	18.6	9.4	13.4
	60~69	529	5.9	24.8	18.5	21.7	7.9	21.2
	70~	311	7.1	21.9	19.0	17.7	8.0	26.4

## 6. 将来観

最後に、問36で「ところで、将来あなたの島は今より暮しやすくなると思いますか、暮らしにくくなると思いますか」との質問を行なっているが、その回答結果は、第22表、第23表に示すとおりである。

(第22表) 問36. 将来あなたの島は今より暮しやすくなると思いますか

1. かなりよくなるだろうと思っている	6.8%
2. いくらかよくなるだろうと思っている	30.5
3. 変りはない	17.2
4. いくらか苦しくなると思う	18.8
5. かなり苦しくなると思う	9.9
6. わからない	17.3

島の将来観は「いくらかはよくなるだろうと思っている」との回答者は30.5%であったが「いくらか苦しくなると思う」と、将来の島での暮らしに対する不安をいだいているものが18.8%で第2位であった。そして、「わからない」と将来観に対して態度を決めかねているものが17.3%あった。

これらの回答を男女、年齢別に見たのが第23表である。

男女別においては、将来はよくなると思っているのは、男の方が女に比べわずかではあるが、高く、また、将来に対して悲観的な回答も男の方が女よりわずかながら多い。これに対して、〈わからない〉と態度を保留した回答は男の13.1%に比べ女の21.5%とかなり高くなっている。将来観に対する意志表示の明確さは男の方が女に比べて強いといえよう。

年令別においては、〈かなりよくなるだろうと思っている〉年令層は19才未満の9.0%で第1位であった。また、島の将来を向上的に見ているものも〈かなり…〉と〈いくらか…〉の両回答項目の合計で判断した場合、19才未満層では49.1

#### IV ま と め

以上のとおり、離島住民意識調査結果の中から主な項目を抽出し島民の意向を分析したが、全体的な傾向としては、いわゆる戦前的な悲壮感は感じられないものの、現状をふまえて、今後の離島を積極的に向上させようとする意向は残念ながら十分ではなかったように思われる。これは、離島という本土から隔絶された社会での島民の精一杯の姿勢であろうか。現状の諸問題に対して、とりわけ、交通・医療等に対する願望においては極めて強い不満の意向が示されていることは、これら

%と約半数のものが将来を期待している。この傾向は、年令が高くなるに従って回答率は低下してきている。これに対して将来を悲観的に見ている年令層は40～49才層の32.4%を筆頭に、30～39才層が31.0%と続いている。いわゆる島内では最も中堅者として離島振興に活躍しなければならない年令層において、将来を悲観的に思っていることは、離島振興政策を講ずる上から十二分に考慮せねばならないことであろう。将来観に対する意志表示を保留したいわゆる〈わからない〉は、70才以上の者が26.4%で、これは同年令層の各回答項目中第1位であった。

の面での環境整備が立遅れているということでは理解できるものであるが、産業面においては必ずしも強い意向が表明されていないという問題点があった。

いずれにせよ、この調査の回答結果を離島民の意向として受けとめ、離島関係者において今後の離島振興推進上、十分に吟味の上活用されることを切望する。

(文責・鈴木勇次 — 日本離島センター主事)

